

おそらく人類史に残るであろうコロナ禍のなかで、図書館をその象徴の一つとする情報基盤も否応なく状況を変貌させることを要請されてしまった。滞在型サービスの減少、イベント企画の中止、遠隔によるサービス提供など、図書館を支える人々も試行錯誤のなかでサービスの維持を試みている状況である。

また、コロナ禍以前からも図書館は図書を貸し出すだけでなく、新たな学びの場としての変貌がなされつつあった。例えば、メイカーズスペースに代表されるような、情報の生産の場としての期待が一部ではなされている。それ以外にも、貸出冊数だけでない新たな評価のありかたも模索されている。

そこで、本シンポジウムでは、学会設置 20 周年の記念の年であることも鑑み、新たな情報基盤としての変化を生み出しつつある図書館の場についての知見を共有し、次の一手を探る場としたい。図書館は何を作れるか。ものづくりにとどまらず、図書館はどのようなモノ><コト>を生み出せるだろうか。パネリストとして、海外の図書館事情にも造詣の深いエドワード増井氏、学校図書館の新たな活用方法を模索しつづける有山先生のお二人をお招きし、ざっくばらんに議論したいと考える。

#### パネリスト（50音順、敬称略）

##### 有山裕美子（ありやまゆみこ）

軽井沢風越学園教諭。都留文科大学、法政大学、玉川大学非常勤講師。都留文科大学文学部初等教育学科、玉川大学文学部卒業、日本大学大学院総合社会情報研究科文化情報専攻修了、修士（文化情報学）。大学卒業後、公立小学校の教員に。出産を機に退職し育児中に通信教育で司書と司書教諭の資格を取得。公共図書館非常勤職員、中学・高等学校で国語科兼司書教諭を経て、現在は軽井沢風越学園で初等教育に携わる。目下の関心は STEAM 教育や学校図書館におけるメイカースペースのあり方、電子書籍活用授業など。

##### 増井尊久（ますいたかひさ、あるいは Edward Masui）

丸善雄松堂株式会社 Research & Innovation 本部 事業開発部 企画開発担当課長。シカゴ大学大学院修了。卒業後は日本でデジタルアーカイブの商品開発に従事する傍ら、同社が主催する海外図書館研修の通訳として同行し、90 館以上の図書館を訪問。現在はファブスペースを中心に、図書館利用者または学習者を情報のクリエイターとして支援する学習空間の構築に取り組む。

## コーディネータ

岡部晋典（おかべゆきのり）

図書館総合研究所主任研究員。筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程単位取得退学、博士（図書館情報学）。同志社大学学習支援・教育開発センター、愛知淑徳大学人間情報学部などを経て現職。興味関心の中心は、人と情報が接続された際に生じる諸現象について。図書館のアウトカム、オープンアクセス、疑似科学と選書論などを主たる研究対象とする。本シンポジウムに関連する業績としては『トップランナーの図書館活用術』（勉誠出版, 2017）など。